

竹田 iP グループのサステナビリティ

サステナビリティ方針

当社グループにおけるサステナビリティの方針は、「経営の基本方針」である社是、「当社が存在する意義」である基本理念、「信頼される企業であり続けるために」との想いで定めた行動規範を実践することであると考えます。

社是（経営の基本方針）

熱意・和合・奉仕

基本理念（当社が存在する意義）

Mission：溢れるほどの情熱をもって、革新しつづける。

Vision：社会から信頼され、必要とされる存在に。

Value：1. 竹田 iP グループの総合力
2. 心ある誠実な企業風土
3. 相手に寄り添うサービス

Spirit：1. あらゆる可能性に挑戦せよ。
2. いかなる時も思い遣りを持て。
3. 粘り強く進め。
4. 社会的課題を解決すべく学べ。
5. 約束と法律を遵守せよ。

Slogan：情熱と革新の未来へ。

行動規範（信頼される企業であり続けるために）

- コンプライアンスの実現のために：責任ある行動をしよう
- 顧客満足の実現のために：お客様に感謝しよう
- 働きがいのある企業風土づくりのために：
仲良く朗らかに元気よく働こう
- グループの総合力発揮とさらなる発展のために：
社運発展のためお互いに協力しよう
- よき企業市民となるために：よき家庭の一員となろう

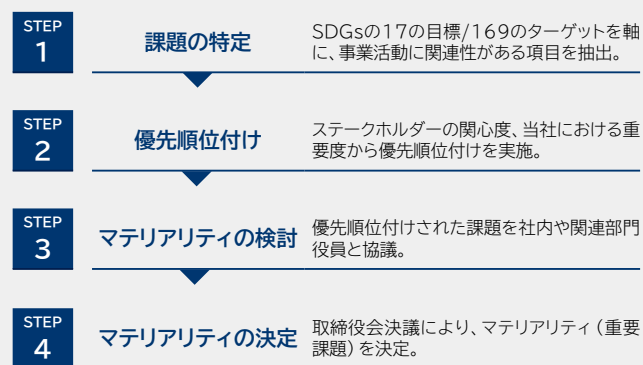
竹田 iP グループフィロソフィー【持続可能な社会の実現】

全員が共有して持つべき意識・価値観・考え方



マテリアリティ【重要課題】

私たちは、「社是」「基本理念」「行動規範」に従い、当社の成長を通じて持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。そのため、SDGsで示されている社会的課題の解決や、ESG（環境・社会・ガバナンス）領域に率先して取り組み、すべてのステークホルダーの皆様からの期待に積極的に応えていきます。当社グループの取り組みをより活性化させるために、11個のマテリアリティ（重要課題）を決定しました。



そして、11個のマテリアリティ（重要課題）の関連性を「事業活動を通じた社会的課題の解決」と「社会的課題を解決に導く経営基盤の強化」に整理しました。



マテリアリティ【重要課題】に対する取り組み

マテリアリティ（重要課題）に積極的に取り組むため、今後は事業戦略と連動した目標（施策・KPI）の具体化を竹田マネジメントシステムを通じて、進めてまいります。

項目	マテリアリティ（重要課題）	ESG	7つの中核課題（ISO26000）	責任者	主な取り組み
事業活動を通じた社会的課題の解決	13 気候変動への適応、15 陸域生態系の保護	E	環境	竹田 iP グループ 事業会社役員	紙媒体とデジタル媒体の融合を推進 カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み ● ISO14001およびFSC森林認証の運用、管理 ● エシカルペーパーの提案 ● 環境に配慮した印刷手法 ● 限りある資源の有効活用 ● 原材料、省エネルギー、大気への排出、排水および廃棄物などの管理
	9 産業・団体の持続可能性の向上、12 持続可能な消費と生産		消費者課題		お客様満足度No.1企業に向けた取り組み お客様の課題解決を促進 お客様のコミュニケーション支援および販売支援 紙媒体とデジタル媒体の融合を推進 ● ワンストップソリューションの強化 ● お客様の置かれている状況とビジネスモデルを深く理解する ● お客様との協業による社会的課題の解決 ● 低コスト生産体制の構築 ● 半導体関連マスク事業の強化 ● 新事業の開発 ● ISO9001およびISO27001の運用、管理
社会的課題を解決に導く経営基盤の強化	3 気候変動への適応、4 質の高い雇用と働きがい、5 ジェンダー平等、8 豊かになるための経済成長、10 人や国の不平等の解消、16 平和と公正な社会	S	公正な事業慣行	竹田 iP グループ 事業会社役員	サプライヤーの皆様と対等で公正な取引実施 良好なパートナーシップの構築 ● 技術、情報の相互交流などによる信頼関係の構築 ● 改善策の推進による共存共栄
			労働慣行		多様な人材の活用推進 労働安全 健康経営 ● 様々な教育制度により社員の能力向上やキャリアアップを推進 ● 福利厚生などの諸制度による社員や家族の生活をサポート ● 労働災害発生防止の徹底
			人権		ダイバーシティとワーク・ライフ・バランスの推進 ● 女性活躍のための制度の充実と社員の意識改革 ● 実労働時間の短縮 ● 生産性を高め場所や時間に縛られない柔軟な働き方 ● 仕事とプライベートの両立と質的向上の確立などの働き方改革を推進
			コミュニティ		地域社会との信頼関係の構築 ● 安心安全な地域社会づくりのための地道な地域貢献活動の継続的実施
	17 持続可能なパートナーシップ	G	組織統治	竹田 iP ホールディングス 経営管理担当役員	透明性のある企業としてコーポレート・ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底 ● 経営の透明性と健全性の確保、迅速な意思決定と適切な事業遂行 ● 法令順守と倫理の確保などに向けて組織管理体制の確保 ● コーポレートガバナンス・コードへの対応 ● ISO27001およびPマークの運用、管理
					株主、投資家の皆様への対応 ● 適時適切な情報開示の実施 ● 株主、投資家の皆様との対話

“SDGsへの取り組み”

▶ 知育教材アプリによる介護支援

ICT（情報通信技術）機器を通じた業務の軽減化

コミュニケーションロボット「ロボホン」を活用した、高齢者福祉施設向け介護レクリエーションアプリ「ロボシルバーク」「ロボシルバークLite」を開発。2021年に販売を開始した知育教材アプリ「ロボキッズパーク」の知見や利用者様のご意見を反映し、QOLの補助、高齢者福祉施設職員の方の負担軽減を目指して開発・商品化されました。

▶ プラスチック使用量を削減

環境配慮型パッケージの普及

日栄印刷刷工では、熱をかけると縮む性質をもつ“シュリンクフィルム”を台紙に貼り付けた「シュリンクフィルム貼付台紙」をご提案しています。従来のプリスターパック（透明なパッケージ）よりも、プラスチック使用量を削減することができ、環境配慮型のエコなパッケージです。小ロット・多品種に対応したシュリンクフィルム貼付装置を自社設備として導入しており、除菌スプレーのパッケージ等に採用されました。



▶障がい者アートの活用

デジタル印刷技術とアール・ブリュットの融合で、新たな価値と可能性を拓く

当社は、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社主催のデジタル印刷コンテスト「Innovation Print Awards 2025 APJ」のダイレクトメール部門で第1位を受賞しました。5年連続エントリーで4回目の受賞です。

受賞作品は、アール・ブリュット作家・荒木麻奈さんが知人の亡き愛猫を描いたイラストをキービジュアルとした個展案内のダイレクトメールです。特殊トナーをブラックと掛け合わせる技術的工夫により、イラスト・デザイン・特殊色の相乗効果で、シンプルながら高い付加価値を持つ作品に仕上げました。

今回の制作は、荒木さん、デザイナー、印刷現場が緊密に協力して実現したもので、アール・ブリュット作品が持つ「普段手に取らないテーマでもぱっと目を引く力」を改めて実感する機会となりました。

当社は今後も地域のアーティストとの信頼関係を大切に育み、デジタル印刷技術の追求を通じて、障がい者アートの魅力発信と印刷物の新たな可能性に挑戦してまいります。

※アール・ブリュット (Art Brut) : 「生(き)の芸術」を意味するフランス語。専門的な美術教育を受けていない人が、伝統的な美術の流行や評価にとらわれず、自身の衝動や表現欲求に従って生み出した芸術作品のこと。



Topic

「SYNC25」への協賛と「The Valuable 500」への加盟を通じ、インクルーシブな社会の実現を推進

竹田印刷は2025年12月に東京で開催された障害者インクルージョンの国際会議「SYNC25 アカウンタビリティ・サミット」にシルバースポンサーとして参加しました。さらに、障がい者が社会や経済で潜在的な価値を発揮できるよう経営層が変革を主導することを掲げた国際イニシアティブ「The Valuable 500」に加盟しました。

これまで障がい者アートの提案や福祉施設と連携した

個展支援、自社製品による就労支援、小学校でのアール・ブリュット紹介、2026年度「アジアパラ競技大会」でのボランティア参加などを展開。社内では「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」を開催し、誰もが安心して働ける環境づくりを進めています。今後も多様性を尊重するインクルーシブな社会の実現に向け、取り組みを強化してまいります。

▶社会貢献活動-1

「もったいない」を「ありがとう」へ 防災備蓄品リユースサービス「Stock Links」

世界では7億人以上が貧困に苦しむ一方、日本の食品ロスは年間600万トン以上にのぼり、企業が備蓄する大量の非常食も廃棄されています。当社の防災備蓄品リユースサービス「Stock Links」は、本来廃棄するはずだった備蓄食料品と、食料を必要とする人をつなぐ新しい仕組みです。

フードバンクを通じて企業と支援団体をマッチングし、こども食堂や生活困窮者支援、大学での学生支援に役立てるとともに、寄付先を記した活動報告書も提出します。期限が近づいた備蓄品の回収から、寄付先のマッチング、入替用備蓄品のご提案・販売、賞味期限の通知まで一貫してサポート。無駄な手間やコストをかけずに食品ロス削減と社会福祉に貢献し、企業のCSR活動とSDGsの取り組みを支援します。



▶社会貢献活動-2

地元の小学生を招いた工場見学の実施

竹田印刷は、地域社会への貢献活動の一環として、2025年7月3日に本社工場へ地元の小学校から33名を招き、工場見学を実施しました。次世代を担う子どもたちにもものづくりの現場や働く人の工夫に触れてもらい、印刷技術や製造業への理解を深めてもらう取り組みです。

当日は印刷の仕組みや工程をクイズを交えて説明した後、安全に配慮された稼働現場を案内。児童たちは大きな印刷機や製本機を熱心に見学し、残紙(印刷工程で余る用紙)を活用したノート作製の実演では全自動のスピードに驚きながら、完成したノートを受け取りました。「安全に作業する工夫がたくさんあった」との感想も寄せられ、従業員にとっても安全管理や整理整頓の意識を高める学びの機会に。今後も印刷事業を通じて地域社会に貢献してまいります。



“2025年度のサステナビリティに関する活動報告”

～サステナビリティ推進室より～

Environment

環境



2025年も気候変動の影響が深刻化し、世界各地で異常気象や自然災害が頻発しました。とりわけ、地球温暖化に伴う極端な少雨や高温により、山火事リスクが高まるなど、環境リスクが一層深刻化しています。

こうした状況を踏まえ、竹田 i P グループでは、環境に配慮した取り組みと事業の持続的な成長が両立することを目指し、適宜設備の更新を行いながら、2023年度に定めた温室効果ガス排出量削減目標に沿って行動を進めています。

2025年度においては、当社グループ(国内主要7社)の温室効果ガス排出量は8,033t-CO₂eとなり、2020年度比38.2%減少(▲4,975t-CO₂e)、前年度比でも、16.1%減少(▲1,545t-CO₂e)し、順調に排出量の削減が進められています。

竹田 i P グループは、今後も「環境負荷の低減」と「企業価値の向上」の両方を追求し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。

Social

社会



2025年は、多様な人材が能力を発揮できる職場づくりや両立支援に対する社会的な要請が一段と高まりました。こうした潮流の中、当社グループは、社員一人ひとりの成長を持続的な企業価値向上の基盤と捉え、人的資本経営を核とした取り組みを推進しました。

当年度、竹田 i P ホールディングスおよび竹田印刷では、「セルフ・キャリアドック」や「組織マネジメント研修」を展開し、社員の自律的なキャリア形成と組織エンゲージメントの向上を支援しました。また、生理や不妊治療時に利用できる「エフ休暇」や、主体的な自己研鑽を支える「ソリューション休暇」といった新休暇制度に加え、ベビーシッター派遣事業割

引券制度を導入するなど、多様な社員が安心して能力を発揮できる環境整備を加速させています。竹田印刷では、女性管理職比率14.3%を達成して「えるぼし」最高位の3つ星認定を取得したほか、国際イニシアティブ「The Valuable 500」への加盟や、障がい者アーティストの「アート雇用」を前進させました。

健康経営の分野では、竹田 i P ホールディングスと竹田印刷の2社が、2026年3月9日付で「健康経営優良法人2026(中小規模法人部門)」に認定され、いずれも3年連続の認定取得となりました。竹田 i P グループは、これからも行動規範に掲げる「仲良く朗らかに元よく働ける」組織を目指します。

Governance

ガバナンス



サステナブルな経営の実現に向け、企業統治のさらなる高度化が求められるなか、2025年度も竹田 i P グループは、コーポレート・ガバナンス体制の継続的な強化に努めました。取締役会においては、すでに社外取締役の割合を過半数とし、女性取締役2名を選任するなど、独立性と多様性を備えた体制を維持しています。今年度はこの体制のもと、各取締役の知見や経験を活かした実質的な議論を重ねることで、意思決定と監督機能のさらなる高度化を図りました。あわせて、取締役会の機能を継続的に向上させるため、実効性評価

の仕組みを導入・運用しています。

また、海外事業の拡大に伴い、グローバルガバナンスの体制整備にも取り組みました。海外拠点への管理能力を備えた人材の配置や、現地従業員への定期的な教育を実施するとともに、外部専門家等に相談できる体制を整え、現地の法令や会計基準等への適正な準拠を進めています。

竹田 i P グループは、今後も実効性のあるガバナンスの運用を通じて、持続可能な企業価値の向上に努めてまいります。